

(件名) 火山灰と原発事故時の避難計画について

(陳情の趣旨)

鹿児島市では桜島噴火を想定し、平成30年7月、実際に大量軽石火山灰を想定した車両走行・道路啓開作業検証実験を実施しています。

この時、「火山灰では深さが10cmにも満たない地点でスタック」と、後輪駆動の軽自動車が火山灰が積もっている場所に入った直後に、後輪が空回りし走れなくなる映像が公開されています。

令和元年7月10日の第10回鹿児島県原子力安全・避難計画等防災専門委員会では、避難時間シミュレーション(E T E)結果が公表されました。その中の「自然災害のシナリオの想定について：桜島噴火」(概要版P.59)には、〈1mm以上の降灰量が予想される範囲の道路については、車両の走行速度は一律10km/hと設定し、さらに10cm以上の降灰量が予想される道路については、一律4km/hと設定する。〉と記載されています。

鹿児島市のホームページに掲載されている映像を見ると、シナリオの想定は、とても非現実的な設定だと思います。九電は、川内原発の敷地内に桜島噴火による火山灰が15cm積もると想定し安全対策をとっているとしていますが、敷地内のことを考えているだけです。そして桜島、鹿児島市内に近づくほど火山灰の量は当然増えていきます。

記

火山灰が積もった状態での避難時の車両の走行について、鹿児島市のように実際に車両を使用して検証するなど、現実的にどのような状態になるか検証すること。